

令和 2 年度

入 学 者 選 拔 要 項

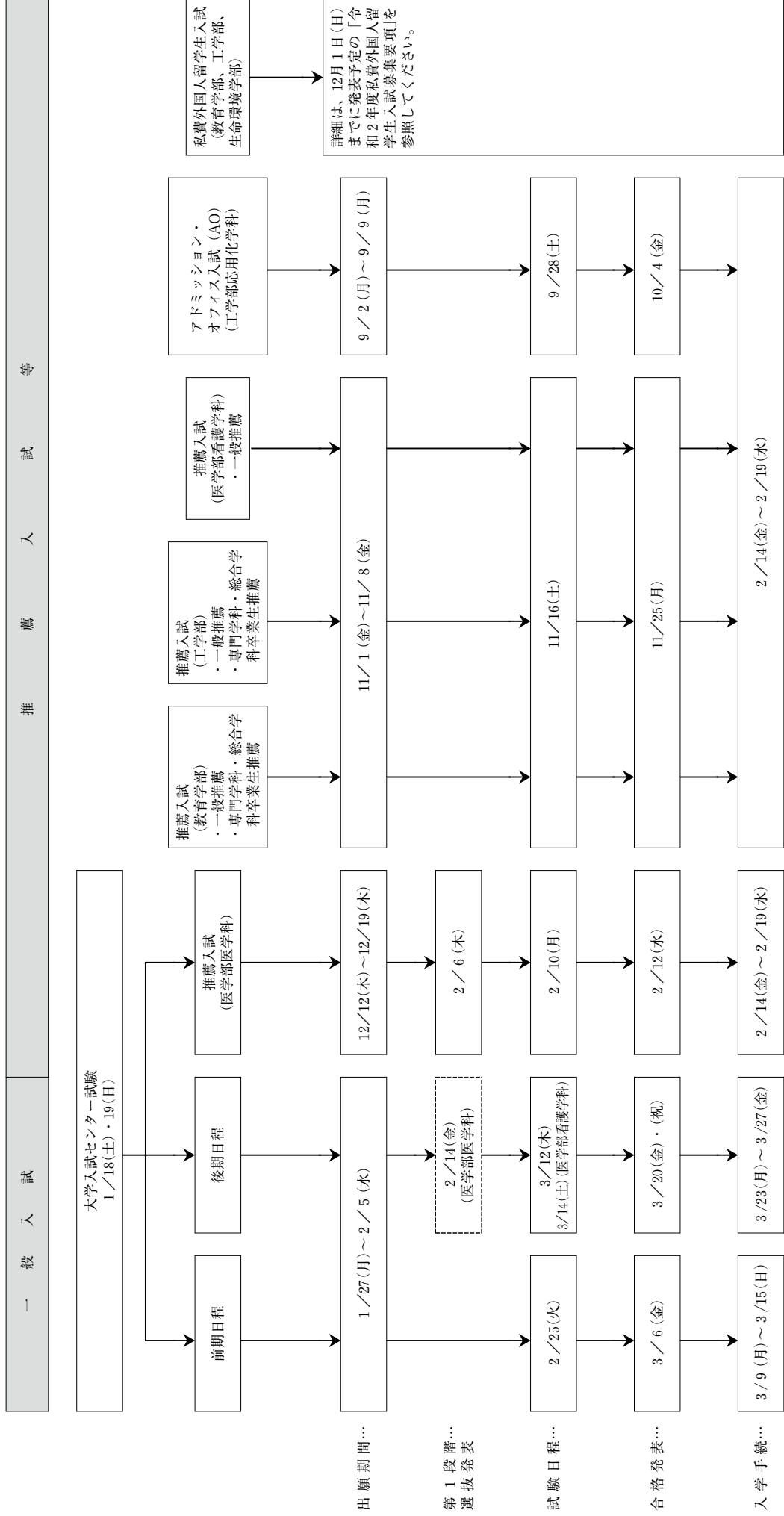


UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学

(<https://www.yamanashi.ac.jp>)

山梨大学入学者選抜日程の概要



- ・ [] は、医学部医学科のみ実施します。
- ・ 医学部医学科の一般入試は、後期日程のみ実施します。
- ・ 入学手続の詳細については、合格者に別途通知します。
- ・ 工学部の一般入試（前期日程）については、東京試験場及び名古屋試験場でも実施します。詳細は、「一般入試学生募集要項」を参照してください。

Web 出願利用ガイド	2
アドミッションポリシー	3
医学部医学科入学定員の変更予定について	6
工学部情報メカトロニクス工学科の学科名称変更予定について	6
 I 入学定員（募集人員）	7
 II 出願資格	8
 III 入学者の選抜方法	9
1 教科・科目の表記について	9
2 一般入試（個別学力検査）の概要	10
3 推薦入試、アドミッション・オフィス入試の概要	12
4 一般入試等（入学者選抜の実施教科・科目等）	14
5 推薦入試	25
(1) 教育学部（一般推薦入試）	
(2) 教育学部（専門学科・総合学科卒業生推薦入試）	
(3) 医学部医学科（推薦入試）	
(4) 医学部看護学科（一般推薦入試）	
(5) 工学部（一般推薦入試）	
(6) 工学部（専門学科・総合学科卒業生推薦入試）	
6 アドミッション・オフィス入試	33
・工学部応用化学科	
7 私費外国人留学生入試	34
・教育学部、工学部、生命環境学部	
 IV 受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談	35
 V 募集要項の公表時期と入手方法	35
 VI 入試情報サイト	35
 VII 大学案内等の請求方法	36

問い合わせ先

山梨大学教学支援部入試課

〒400-8510 甲府市武田4丁目4-37

電話 055-220-8046

（受付時間） 平日（月～金）8時30分～17時

（ただし、休日、祝日、夏季一斉休業（8/14～8/16）及び年末年始（12/28～1/3）を除く）

Web出願利用ガイド

本学では、Web出願を実施しています。出願期間内に「出願情報の登録」・「入学検定料の納入」・「出願書類の印刷・作成・提出」の全てを完了してください。いずれか1つでも完了していない場合は、出願の受付をすることができませんので、注意してください。

STEP 1

Web出願の事前準備

- ①インターネットに接続されたパソコン、スマートフォン、タブレットなど
OSやブラウザは最新の状態にアップデートしておいてください。また、PDFを表示するために、アドビシステム社のAdobe Readerの最新版をダウンロード(無償)し、最新の状態にアップデートしておいてください。
- ②利用可能なメールアドレス
パソコンやスマートフォン等で利用可能なメールアドレスを用意してください。設定で「@yamanashi.ac.jp」からの受信を許可し、迷惑メールに振り分けられないようにしてください。
- ③A4サイズの印刷が可能なプリンター
出願書類を印刷する際に必要です。自宅にプリンターがない場合、学校や図書館などの公共施設のプリンターやコンビニエンスストアのプリントサービスを利用してください。
- ④事前に準備できる出願書類
「卒業(見込)証明書」や「成績証明書」などは発行に時間がかかる場合がありますので、早目に出身学校等に申請手続きをしてください。「推薦書」や「活動実績報告書」等の様式は、出願期間前から本学ホームページよりダウンロードが可能です。
- ⑤市販の角型2号封筒・384円分の郵便切手
封筒は出願書類の送付に必要です。切手は過不足なく用意してください。
※出願する入試により、切手料金が異なる場合があります。
- ⑥写真
3ヶ月以内に撮影した正面上半身、脱帽、無背景、フルカラー、縦4:横3(縦800ピクセル×横600ピクセル以上)、JPEG形式の写真を用意してください。



STEP 2

メールアドレスの登録

インターネットで「山梨大学 Web出願」で検索または下のQRコードからWeb出願サイトにアクセスし、画面右上の「新規利用者登録」からメールアドレスを登録してください。登録後すぐにシステムからメールが届きますので、本文に記載されているURLより30分以内に次の手順に進んでください。

STEP 3

利用者情報の登録 ※いつでも登録が可能です。

画面の案内に従って個人情報(氏名、住所、電話番号、生年月日など)を登録してください。

STEP 4

入試情報の登録 ※出願期間中のみ登録できます。

画面の案内に従って入試情報(入試種別、志望学部・学科、受験科目、写真など)を登録してください。



山梨大学入試
Web出願サイト

<https://syutugan.yamanashi.ac.jp/>

STEP 5

入学検定料の支払い

Web出願サイト画面右上の「マイページ」をクリックし、「検定料の支払い」から①コンビニエンスストア、②金融機関ATM(Pay-easy)、③ネットバンキング、④クレジットカードのいずれかの支払い方法を選択し、入学検定料をお支払いください。支払い方法によって入金が確認されるまで2時間程度かかる場合があります。

STEP 6

出願書類の印刷・作成・提出

Web出願サイト画面右上の「マイページ」をクリックし、「出願書類印刷」から必要な書類を印刷・作成してください。用意しておいた封筒に「封筒貼付票」を貼り、「出願書類等チェックリスト」で出願書類が全て揃っているかを確認しながら書類を入れ、山梨大学入試課に提出してください。

出願書類が受理されたら出願完了です。受験票の到着をお待ちください。

Web出願に関する問い合わせ

山梨大学入試課 ☎055-220-8046

✉web-nyushi-tr@yamanashi.ac.jp

※システム改修等により、登録手順や利用方法が変更になる場合があります。

《アドミッションポリシー》

◇山梨大学の理念・目標とアドミッションポリシー

〔理念・目的〕

豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行います。

〔キャッチフレーズ〕

地域の中核、世界の人材

〔教育目標〕

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見いだし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

〔アドミッションポリシー〕

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として、専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指しています。これを実現するため、学部・学科などの教育プログラムには、その修了に必要な教養、汎用能力、専門能力をすべて身につけられるカリキュラムが編成されています。本学では、これらのカリキュラムを知的好奇心をもって継続的・主体的に修得して卒業し、専門分野に関する高度な能力を通じて社会に貢献する志をもつとともに、入学時において以下のような基礎的な資質能力を有する人物を国内外から受け入れます。

〔入学者に求める資質能力〕

高等学校で履修する、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語等について、内容を理解し、高校卒業程度の知識を有している人その他、各教育プログラムの学修に必要な資質能力（思考力・判断力・表現力など）を有する人

▽教育学部の理念・目標とアドミッションポリシー

〔理念・目的〕

人間と文化・社会に関する幅広い視野と教養をもち、人間の生涯発達と学習についての専門的な知識を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する人材養成のための教育・研究を目的にしています。

〔キャッチフレーズ〕

豊かな人間性と教育文化

〔教育目標〕

人間の生涯発達を視野に収め、教育に対する情熱と課題を解決する高い実践力を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する教育人の養成を目指します。

〔アドミッションポリシー〕

これからの子どもの成長と発達に高い関心を持ち、教育現場の諸問題に取り組むことのできる情熱を持った教員を目指す人を求めています。そこで、次のような資質と能力を持つ人の受験を期待します。

- ・子どもの成長・発達や学校教育に対して高い関心を持っている人
- ・自ら深く学ぶため主体的に課題を見出すことができる人
- ・課題の解決に向けた探求の努力を継続する意欲のある人
- ・多様な考えの人たちと協力できるコミュニケーション能力や協調性を備えた人

〔入学前に学習しておくことが期待される内容〕

各コースの専門性に応じた教科・科目の内容を確実に身につけておく必要があります。同時に、将来教育に携わる者として、子どもの成長・発達や学校教育に対する関心、多様な考えの人たちとのコミュニケーション能力、個性豊かな考えとそれを表現する力を、様々な活動を通して身につけておくことを望んでいます。

▽医学部の理念・目標とアドミッションポリシー

[理念・目的]

深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身につけ、科学的根拠に基づいた医学的知識、技術を備え、地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

国民の健康を支える医療人育成

[教育目標]

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材及び疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成を目指しています。

[アドミッションポリシー]

医学部では、「国民の健康を支える医療人の育成」を行うため、次のような資質と能力を持つ人材を求めています。

- ・単に病気やけがを治すだけでなく、一人一人に最良の医療を提供するために、努力を惜しまない人
- ・健康問題に興味があり、地域医療や国際医療に貢献したいと考えている人
- ・疾患の原因を解明し、治療法を開発したいと考えている人
- ・深い人間愛と広い視野を持ちコミュニケーション能力が高い人

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

医学部の授業内容を理解するためには、各コースの専門性に応じた高等学校における教科・科目の内容を確実に身につけておく必要があります。さらに、学科の違いによって次のような違いがあります。

○医学科

医学部で幅広い医学的知識を学習するために必要な基礎学力を身につけておいてください。特に、大学受験の理科科目として物理学、化学を選択した学生であっても生物学の基礎を修得していることを望みます。外国語の修得には時間がかかりますので、入学前から常に英語力の向上を目指してください。また、多彩な人との豊かな人間関係を築くこと、様々な組織の中でチームワークによる活動の経験を持つことによって、医療人に求められる高い倫理観、信頼される人間性、広い社会的視野を涵養することを心掛けてください。

○看護学科

看護学科入学までに高等学校で学ぶ数学、理科、国語、英語、社会の内容を十分理解していることが必要です。加えて、主体的に学習する態度を身につけ、多様な世代の人々と豊かな人間関係を築き、国内外の社会情勢の変化に眼を向けてください。

▽工学部の理念・目標とアドミッションポリシー

[理念・目的]

広い教養と深い専門知識を身につけ、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

未来世代を思いやるエンジニアリング教育

[教育目標]

基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力を修得するとともに、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に負っている責任を理解し、科学的知見と技術を総合して社会的課題を解決する能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力を身につけた人材を養成します。

[アドミッションポリシー]

工学部では、「未来世代を思いやるエンジニアリング教育」をキャッチフレーズとして掲げ「広い教養と

深い専門性をもち豊かな想像力と優れた判断力を備えた将来を担う工学系技術者を養成する」ため、工学技術者となって社会に貢献しようとする意志を持ち、積極的な学習意欲、基礎的学力、論理的思考力・表現力などを有する人を求めています。

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、社会の内容を十分に理解していることが必要です。希望する学科の専門に関連する内容を理解するだけでなく、自分の言葉で他者とコミュニケーションする素養を持つことを期待しています。

▽生命環境学部理念・目標とアドミッションポリシー

[理念・目的]

自然と社会の共生科学に基づき、広い視野と深い専門知識を身につけ、持続可能な地域社会の繁栄を担う人材を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

自然と社会の共生科学の創生

[教育目標]

生命科学・食物生産・環境科学・社会科学に関する実践教育により、広範な知識を統合し、問題を発見し解決する能力を身につけ、自然と社会の共生の観点から持続可能で豊かな地域社会を実現できる人材の養成を目指します。

[アドミッションポリシー]

生命環境学部では、「自然と社会の共生科学の創生」を行うため、自然と社会の共生科学の視点から、生命・食・環境・経営などの諸課題に取組み、解決する意欲をもつ人を求めています。

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

生命環境学部では、授業内容を理解するために、学科の専門性に応じた高等学校における教科・科目の内容を確実に身につけておくことが必要です。さらに、学科の違いによって次のような違いがあります。

○生命工学科

バイオサイエンスを理解し、バイオテクノロジーを身につけるために、生物を中心とした学問領域に加え、多様な物質を扱う化学に関する知識が必要です。論理的思考力を養うため、数学の素養も望んでいます。入学試験で課している科目について、十分な学力を有していることを期待しています。

○地域食物科学科

食物生産あるいはワイン製造に関する課題を解決するためには、原料の生産・加工・利用等を含む総合的な知識が必要です。したがって、高等学校で学ぶ化学・生物などの理科学科目を十分に理解できていることを望んでいます。また、自らの考えを論理的に伝える基礎として、高等学校で学ぶ国語・英語を身につけておくことを期待しています。

○環境科学科

高等学校で履修した物理、化学、生物、地学といった理系科目に加え、自分の言葉で他者とコミュニケーションをとるための国語や外国語の素養が身につけていることを望んでいます。さらに、地理歴史、公民といった社会系科目に対する理解と同時に、環境に対する関心や興味を持っていることを期待しています。

○地域社会システム学科

普段から新聞や書籍を読み、政治・経済の動向や現代社会の問題に強い関心を持っていることを望んでいます。入学試験で課している科目の基礎的内容を十分に理解していることが必要です。

《医学部医学科入学定員の変更予定について》

医学部医学科の令和2年度以降の入学定員は、「新医師確保総合対策」、「緊急医師確保対策」及び「経済財政改革の基本方針2009」に基づいた暫定的な医学科定員増が平成31年度で終了することに伴い、20名減の105名となります。

本学では、令和2年度についてもこれまでと同様の入学定員になるよう「新医師確保総合対策」、「緊急医師確保対策」及び「経済財政改革の基本方針2009」に基づいた暫定的な医学科定員増（20名）の延長申請を予定しております。定員増が承認された場合は、改めて入学定員の変更について本学ホームページ上で公表しますので、医学部医学科への出願を予定している方は必ず確認してください。

現状

（令和2年度）

学部名	学科名	入学定員	入試区分	募集人員
医学部	医学科	105名	推薦	15
			後期	90

⇒

申請し承認された場合

（令和2年度）

学部名	学科名	入学定員	入試区分	募集人員
医学部	医学科	125名	推薦	35
			後期	90

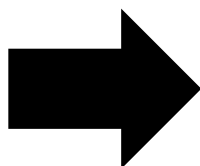
《工学部情報メカトロニクス工学科の学科名称変更予定について》

本学では、文部科学省大学設置・学校法人審議会に、工学部情報メカトロニクス工学科の学科名称変更計画書を提出しています。

この計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審議結果によって確定するものであり、変更があり得ます。文部科学省大学設置・学校法人審議会の審議結果通知後（令和元年8月中旬～下旬頃）、学科名称変更が確定した場合は、学則等の関係規則の改正を実施して令和2年4月から次のとおり変更する予定です。

変更前（令和元年度）

【工学部】 機械工学科 電気電子工学科 コンピュータ理工学科 <u>情報メカトロニクス工学科</u> 土木環境工学科 応用化学科 先端材料理工学科



変更後（令和2年度）

【工学部】 機械工学科 <u>メカトロニクス工学科</u> 電気電子工学科 コンピュータ理工学科 土木環境工学科 応用化学科 先端材料理工学科

この計画は現在認可申請中のため予定であり、内容に変更があり得ます。

I 入学定員（募集人員）

学部	課程・学科・コース名	入学定員	募集人員							
			一般入試		推薦入試			アドミッション・オフィス入試	私費外国人留学生入試	総募集人員
			前期日程	後期日程	一般枠	地域枠	専門学科・総合学科卒業生			
教育学部	学校教育課程	125								
	幼小発達教育コース		15	5						20
	障害児教育コース		12	5	3					20
	言語教育コース		10	3	2					15
	生活社会教育コース		15	5	2					22
	科学教育コース		18	6	3					28
	芸術身体教育コース		8	4	8					20
	計	125	78	28	18		1			125
医学部	医学科 * 1	105		90		15人以内				105
	看護学科	60	30	5	25					60
	計	165	30	95	25	15人以内				165
工学部	機械工学科	55	37	8	10					55
	電気電子工学科	55	35	7	10		3			55
	コンピュータ理工学科	55	35	8	10		2			55
	情報メカトロニクス工学科	55	35	5	13		2			55
	土木環境工学科	55	33	7	15					55
	応用化学科	55	26	7	14			8		55
	先端材料理工学科	35	25	6	4					35
	計	365	226	48	76		7	8		365
生命環境学部	生命工学科	35	30	5					若干人	35
	地域食物科学科	37	32	5					若干人	37
	ワイン科学特別コース* 2		(13)						(13)	
	環境科学科	30	25	5					若干人	30
	地域社会システム学科	48	43	5					若干人	48
	観光政策科学特別コース* 3		(13)						(13)	
	計	150	130	20					若干人	150
合計		805	464	191	119	15人以内	8	8	若干人	805

* 1 医学科の入学定員及び募集人員は、認可申請予定であり、変更の可能性があります。承認された場合は、入学定員について改めて本学ホームページ上で公表しますので、出願を予定している方は必ず確認してください。

* 2 地域食物科学科ワイン科学特別コースの（ ）内の人員については、地域食物科学科の人員に含まれます。

* 3 地域社会システム学科観光政策科学特別コースの（ ）内の人員については、地域社会システム学科の人員に含まれます。

Ⅱ 出願資格

本学に出願できる方は、次の各号のいずれかに該当し、令和２年度大学入試センター試験のうち本学が指定した教科・科目を受験した方とします。ただし、推薦入試、アドミッション・オフィス入試及び私費外国人留学生入試については、別の出願要件（25ページ～34ページ）によります。

- (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）を卒業した方及び令和２年３月卒業見込みの方
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した方及び令和２年３月修了見込みの方
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した方と同等以上の学力があると認められる方のうち次の各項目のいずれかに該当する方及び令和２年３月31日までにこれに該当する見込みの方
 - ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した方又はこれに準ずる方で文部科学大臣が指定した方
 - イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した方
 - ウ 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した方
 - エ 文部科学大臣の指定した方
 - オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した方（旧規定による大学入学資格検定に合格した方を含む。）で、令和２年３月31日までに18歳に達する方
 - カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した方と同等以上の学力があると認めた方で、令和２年３月31日までに18歳に達している方

上記カの個別の入学資格審査については、下記のとおりです。

① 申請対象者

令和２年度大学入試センター試験を受験予定及び受験した方で、外国人を対象に教育を行うことを目的として我が国に設置された教育施設において、高等学校に対応する３年に相当する学習歴を有する方又は有する見込みの方

② 申請受付期間

- ・大学入試センター試験出願前に本学の入学資格審査を希望する方
令和元年８月19日(月)～23日(金) [必着]
- ・大学入試センター試験出願後に本学の入学資格審査を希望する方
令和２年１月20日(月)～21日(火) [必着]

③ その他

申請手続等詳細については、下記までお問い合わせください。

山梨大学教学支援部入試課

〒400－8510 甲府市武田４丁目４－37

電話 055－220－8046

Ⅲ 入学者の選抜方法

1 教科・科目の表記について

大学入試センター試験の出題教科・科目名は、次のように略しています。

教 科	表 記	科 目	表 記
国語	国	国語	国
地理歴史	地歴	世界史 A	世 A
		世界史 B	世 B
		日本史 A	日 A
		日本史 B	日 B
		地理 A	地理 A
		地理 B	地理 B
公民	公民	現代社会	現社
		倫理	倫
		政治・経済	政経
		倫理、政治・経済	倫・政経
数学	数	数学 I	数 I
		数学 I・数学 A	数 I・数 A
		数学 II	数 II
		数学 II・数学 B	数 II・数 B
		簿記・会計	簿
		情報関係基礎	情報
理科	理	物理基礎	物基
		化学基礎	化基
		生物基礎	生基
		地学基礎	地基
		物理	物
		化学	化
		生物	生
		地学	地
外国語	外	英語	英
		ドイツ語	独
		フランス語	仏
		中国語	中
		韓国語	韓

個別学力検査の出題教科・科目名は、次のように略しています。

教 科	表 記	科 目	表 記
国語	国	国語総合・国語表現・ 現代文 A・現代文 B・ 古典 A・古典 B	国語総合・国語表現・ 現代文 A・現代文 B・ 古典 A・古典 B
数学	数	数学 I	数 I
		数学 II	数 II
		数学 III	数 III
		数学 A	数 A
		数学 B	数 B
理科	理	物理基礎	物基
		化学基礎	化基
		生物基礎	生基
		物理	物
		化学	化
		生物	生
外国語	外	コミュニケーション英語基礎・ コミュニケーション英語 I・コ ミュニケーション英語 II・コ ミュニケーション英語 III・英語表 現 I・英語表現 II・英語会話	コミュニケーション英語基礎・ コミュニケーション英語 I・コ ミュニケーション英語 II・コ ミュニケーション英語 III・英語表 現 I・英語表現 II・英語会話

2 一般入試（個別学力検査）の概要

(1) 前期日程

学部・課程・学科・コース名			選抜方法等	個別学力検査							個別学力検査等の日程	備 考 〔欠員の補充の方法等〕
				個別学力検査を課する	実技検査等				2段階選抜			
					実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する	主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率 その他		
教育学部	学校教育課程	幼小発達教育コース	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日	追加合格及び欠員補充第2次募集
		障害児教育コース	○	×	○	×	×					
		言語教育コース	○	×	×	×	×					
		生活社会教育コース	○	×	×	×	×					
		科学教育コース	○	×	×	×	×					
		芸術身体教育コース	×	○	×	×	×					
		医学部	看護学科	×	×	○ (注)4	○					
工学部	機械工学科	○ (注)5	×	×	×	×	×	×	×	×		
	電気電子工学科											
	コンピュータ理工学科											
	情報メカトロニクス工学科											
	土木環境工学科											
	応用化学科											
	先端材料理工学科											
生命環境学部	生命工学科	○	×	×	×	×	×	×	×			
	地域食物科学科 (注)6											
	環境科学科											
	地域社会システム学科(注)7											

(注) 1 ○印は、当該検査等を課すこと又は該当することを示します。

2 ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示します。

3 本学の前期日程の学部・学科（課程・コース）と後期日程の学部・学科（課程・コース）との併願は可能です。

4 医学部看護学科前期日程における面接の評価については、17ページを参照してください。

5 工学部の前期日程では、個別学力検査において受験する教科・科目に応じて、志望学科にそれぞれ第1、第2の志望順位を付けて出願することができます。

6 生命環境学部地域食物科学科は、ワイン科学特別コースを含みます。なお、ワイン科学特別コースの志願者は、地域食物科学科(前期日程募集)を第2志望とすることが可能です。

7 生命環境学部地域社会システム学科は、観光政策科学特別コースを含みます。なお、観光政策科学特別コースの志願者は、地域社会システム学科(前期日程募集)を第2志望とすることが可能です。

(2) 後期日程

学部・課程・学科・コース名			選抜方法等	個別学力検査							個別学力検査等の日程	備考 〔欠員の補充の方法等〕
				個別学力検査を課する	実技検査等				2段階選抜			
					実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングを課する	主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率 その他		
教育学部	学校教育課程	幼小発達教育コース	×	×	○	×	×	×	×	×	3月12日	追加合格及び欠員補充第2次募集
		障害児教育コース	×	×	○	×	×					
		言語教育コース	×	×	○	×	×					
		生活社会教育コース	×	×	○	×	×					
		科学教育コース	×	×	○	×	×					
		芸術身体教育コース	×	○	○	×	×					
		医学部	医学科	○	×	○ (注)4	×					
看護学科	×	×	○ (注)4	×	×	×	×	×	×	3月14日		
工学部	機械工学科	×	×	○ (注)5	×	×	×	×	×	3月12日		
	電気電子工学科											
	コンピュータ理工学科											
	情報メカトロニクス工学科											
	土木環境工学科											
	応用化学科											
	先端材料理工学科											
生命環境学部	生命工学科	×	×	○	×	×	×	×	×	3月12日		
	地域食物科学科											
	環境科学科											
	地域社会システム学科											

(注) 1 ○印は、当該検査等を課すること又は該当することを示します。

2 ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示します。

3 本学の前期日程の学部・学科（課程・コース）と後期日程の学部・学科（課程・コース）との併願は可能です。

4 医学部医学科及び看護学科の後期日程における面接の評価については、17ページを参照してください。

5 工学部の後期日程では、全学科の間で、志望学科にそれぞれ第1、第2の志望順位を付けて出願することができます。

3 推薦入試、アドミッション・オフィス入試の概要

学部・課程・学科・コース名			選抜方法等	推薦入試、専門学科・総合学科卒業生推薦入試						推薦入試 募集人員	アドミッション ・オフィス入試	備 考	
			入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を 免除し調査書を主な資料として判定する										
			個別学力 検査を免 除し、大 学入試セ ンター試 験を課す	個別学力 検査及び 大学入試 センター 試験を免 除する	実 技 検 査 等								その他 (口述 試験)
実技検 査を課 する	面接を 行う	小論文 を課す る			外国語 におけ るリス ニング テスト を課す る								
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	幼小発達教育コース									19人 (注)4 参照	×	Ⅲ－5 推薦入試 (P25～27)を参照
		障害児教育コース	×	○	×	○	○	×	×				
		言語教育コース	×	○	×	○	○	×	×				
		生活社会教育コース	×	○	×	○	○	×	×				
		科学教育コース	×	○	×	×	×	×	○				
		芸術身体教育コース	×	○	○ (注)3	○	×	×	×				
医 学 部	医学科	○	×	×	○	×	×	×	15人以内 (注)5 参照	×	Ⅲ－5 推薦入試 (P28～29)を参照		
	看護学科	×	○	×	○	○	×	×	25人				
工 学 部	機械工学科	×	○	×	○	○	×	×	83人 (注)6、7 参照	×	Ⅲ－5 推薦入試 (P30～32)を参照 Ⅲ－6 アドミッショ ン・オフィス入試 (P33)を参照		
	電気電子工学科												
	コンピュータ理工学科												
	情報メカトロニクス工学科												
	土木環境工学科												
	応用化学科												
	先端材料理工学科												
生 命 環 境 学 部	生命工学科									×			
	地域食物科学科												
	環境科学科												
	地域社会システム学科												

(注) 1 ○印は、当該検査等を課すこと又は該当することを示します。

2 ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示します。

3 教育学部の芸術身体教育コースの体育実技を選択する方は、活動実績報告書とその証明書類の提出をもって実技検査とします。

4 次頁

5 次頁

6 次頁

7 次頁

(注) 4 教育学部推薦入試募集人員の内訳は、次表のとおりです。

課 程 ・ コ ー ス 名		募集人員	推薦入試の対象となる高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）・志願者の範囲
学校教育課程	障害児教育コース	3	全国の国公立高等学校
	言語教育コース	2	
	生活社会教育コース	2	
	科学教育コース	3	
	科学教育コース	1	全国の国公立高等学校の工業に関連する学科 全国の国公立高等学校の総合学科のうち工業に関する科目を含め職業に関する科目を20単位以上履修見込みの方
	芸術身体教育コース	8	全国の国公立高等学校

(注) 5 医学部医学科推薦入試募集人員の内訳は、次表のとおりです。

学 科 名	種 別	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校の範囲
医学科	地域枠	15人以内	山梨県内の公立高等学校

※P 6 を参照

(注) 6 工学部一般推薦入試の募集人員の内訳は、次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校の範囲
機械工学科	10	全国の国公立高等学校
電気電子工学科	10	
コンピュータ理工学科	10	
情報メカトロニクス工学科	13	
土木環境工学科	15	
応用化学科	14	
先端材料理工学科	4	
計	76	

(注) 7 工学部専門学科・総合学科卒業生推薦入試の募集人員の内訳は、次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校・志願者の範囲
電気電子工学科	3	全国の国公立高等学校の職業に関する学科若しくは総合学科において本学の志望学科に関係のある専門教育を受けた方
コンピュータ理工学科	2	
情報メカトロニクス工学科	2	
計	7	

4 一般入試等（入学者選抜の実施教科・科目等）

1) 教育部

[illegible]

*印の教科については、選択教科を示します。

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成31年度〕 〔志願倍率〕		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の 選抜方法 等	
学力検査 等の区分 ・日程		科 目 等		教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語 小論文	実技	面接	配点 合計	
教育学部 〔5.5〕 125人 前期 78 後期 28 その他 19	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物理、化、生、地から1又は 物、化、生、地から2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目又は8科目〕	数 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B 物理・物、化、生、地から1		センター試験	100	100	100	150	150 注3(1)				600	
	後期 3月12日	外			その他	面接		計	100	100	350	350	100				1000
								センター試験	100	100	100	300	300 注3(1)				900
芸術身 体教育 コース 20人 前期 8 後期 4 その他 8	前期 2月25日	国 地歴 公民 数	世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1 現社、倫、政経、倫・政経から1 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、生基、生基、地基から2又は 物理、化、生、地から1 英、独、仏、中、韓から1 〔6教科7科目又は8科目〕	その他	実技 (別紙1－1 (P23) 参照)		センター試験	150	50	50	100	100 注3(1)				600	
	後期 3月12日	理 外			その他	面接		計	150	50	50	100	150	400	400	1000	
								センター試験	100	50	50	100	100 注3(1)				500
							個別学力検査等							400	100	500	
							計	100	50	50	100	100	100	400	100	1000	

- (注)
- 大学入試センター試験の利用教科・科目等
 - 大学入試センター試験の地理歴史及び公民のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。
 - 大学入試センター試験の「物理、化学、生物、地理」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」と「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」と「物理、化学、生物、地理」の両方を大学入試センター試験で受験した場合、いずれか得点の高い方をその成績とします。
 - 生活社会教育コースにおいては、該当する科目を受験している場合、理科aと地理歴史及び公民から2科目の合計点、または理科bと地理歴史及び公民から1科目の合計点のいずれか高得点の方をその成績とします。
 - 生活社会教育コースと科学教育コースにおいては、理科の同一科目名を含む科目の選択を認めます。
 - 個別学力検査等
 - 前期日程における個別学力検査等の数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の数学Bは、『数列』及び『ベクトル』を出題範囲とします。

- 数 学
- 物 理
- 化 学
- 生 物
- 前期日程における個別学力検査等の物理基礎・物理は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の化学基礎・化学は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の生物基礎・生物は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の生物基礎・生物は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の生物基礎・生物は、全範囲を出題範囲とします。
- 3 大学入試センター試験における英語のリスニングテストの成績は全課程で利用します。利用にあたっては、筆記試験 (200点満点) とリスニングテスト (50点満点) の合計得点を200点満点に圧縮し、他の外国語と比較できるようにします。
- なお、外国語の得点は、表中「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄に従い換算した点数数を利用します。

- (2) 生活社会教育コースにおける大学入試センター試験の（ ）は、上段は地理歴史及び公民を2科目と理科aを受験した場合の配点、下段は地理歴史及び公民を1科目と理科bを受験した場合の配点を示します。
- (3) *印の教科については、選択教科を示します。
- 4 個別学力検査等のすべてを受験した場合のみ選考の対象となります。
- 5 学部・学科等名及び入学定員等欄のその他は、推薦入試募集人員及び私費外国人留学生入試募集人員を合計した数です。

大学の令和2年度入学資格選抜における大学入試センター試験の成績は、令和2年度大学入試センター試験の成績のみ利用します。

【入学試験に過去問題を使用することに関して】

- (1) 大学のアドミSSIONポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学、「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。
- (2) 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部変更することもあります。また、使用した過去問題については、入試終了後、受験生に分かるような形で公表します。
- (3) 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しています。 <http://www.nyushikakomon.jp>

(2) 医学部

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成31年度〕 〔志願倍率〕		学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個 別 学 力 検 査 等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等
			教科	科 目 名 等		教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	
医学部 〔9.3〕 165人 前期 30 後期 95 その他 40	医学科 後期 3月12日 数 理 外	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B、日B、地理B 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B 物、化、生から2 英	から1 〔5教科7科目〕	数 理 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物、化基・化、生基・生から2 面接	約10倍 1－2 P24参 照)	センター試験	200	100	100	100	300 注3(1)				800
								個別学力検査等			600	600				注3(2)	1200
								計	200	100	700	700	300		2000		
								センター試験	200	100	200	100	200 注3(1)		800		
看護学科 60人 前期 30 後期 5 その他 25	前期 2月25日 公民 数 理 外	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、薄、情報から1 物基、化基、生基、地基から2又は 物、化、生、地から1 英	から1 〔5教科6科目又は7科目〕	その他 小論文 面接			センター試験						200 注3(3)	200 注3(3)	400	
								個別学力検査等							200 注3(3)	200 注3(3)	400
								計	200	100	200	100	200 注3(3)	200 注3(3)	1200		
								センター試験	200	100	200	100	200 注3(1)		800		
	後期 3月14日				その他 面接			個別学力検査等							400(個人) 注3(4)	400 注3(4)	400
								計	200	100	200	100	200	400 注3(4)	400 注3(4)	1200	

(注)

1 大学入試センター試験の利用教科・科目等

- (1) 大学入試センター試験の「地歴」、「公民」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。
(2) 大学入試センター試験の「理科」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。
(3) 大学入試センター試験の「基礎を付していない科目」及び「基礎を付した科目」2科目合計の得点又は「理科の「基礎を付していない科目」の得点」のうち、いずれか得点の高い成績とします。

2 個別学力検査等

数 学

- (1) 医学科の後期日程における個別学力検査等の数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。

- (2) 医学科の後期日程における個別学力検査等の数学Bは、「数列」及び「ベクトル」を出題範囲とします。

物 理

- (3) 医学科の後期日程における個別学力検査等の物理基礎・物理は、全範囲を出題範囲とします。

化 学

- (4) 医学科の後期日程における個別学力検査等の化学基礎・化学は、全範囲を出題範囲とします。

生 物

- (5) 医学科の後期日程における個別学力検査等の生物基礎・生物は、全範囲を出題範囲とします。

3 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等

- (1) 大学入試センター試験における英語のリスニングテストの成績は全学科で利用します。利用にあたっては、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に圧縮し、外国語の得点は、表中「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄に従い換算した点数を利用します。

- (2) 医学科後期日程においては、面接の評価が合格に達しない人は大学入試センター試験の成績及び個別学力検査等の成績に問わず、不合格となります。

- (3) 看護学科前期日程においては、小論文又は面接評価得点が合格基準に達しない場合、大学入試センター試験の成績と個別学力検査等の総得点が合格最低点に達していても、不合格となります。

- (4) 看護学科後期日程においては、面接評価得点が合格基準に達しない場合、大学入試センター試験の成績と個別学力検査等の総得点が合格最低点に達していても、不合格となります。また、面接は個人面接を2回行います。

- 4 個別学力検査等のすべてを受験した場合のみ選考の対象となります。

- 5 学部・学科等名及び入学定員等欄のその他は、推薦入試募集人員を合計した数です。

【大学の令和2年度入学者選抜における大学入試センター試験の成績は、令和2年度大学入試センター試験の成績のみ利用します。】

【入学試験に過去問題を使用することに関して】

- (1) 本学のアドミッションポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学、「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。
(2) 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用すること、一部改変すること、使用した過去問題については、入試終了後、受験生に分かるような形で公表します。
(3) 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しています。http://www.nyushikakomon.jp

(3) 工学部

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成31年度〕 〔志願倍率〕	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の 選抜方法 等		
		教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試 験 の 区 分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技		面接	配点 合計
工学部 〔3.3〕 機械工学科 55人 前期 37 後期 8 その他 10 AO 8 その他 83	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 物基・物		センター試験	200	100		200	200 注3(1)	200 注3(1)				900	推薦 外国人 追加合格 欠員補充
	後期 3月12日		その他	面接		計	200	100		450	350	200				1300		
						センター試験	200	100		300	300 注3(1)						1100	
						個別学力検査等										注3(2)		
電気電子工 学科 55人 前期 35 後期 7 その他 13	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 物基・物		センター試験	200	100		200	200 注3(1)	200 注3(1)				900	
	後期 3月12日		その他	面接		計	200	100		450	350	200				1300		
						センター試験	200	100		300	300 注3(1)						1100	
						個別学力検査等										注3(2)		
コンピュー タ理工学科 55人 前期 35 後期 8 その他 12	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 物基・物、化基・化から1		センター試験	200	100		200	200 注3(1)	200 注3(1)				900	
	後期 3月12日		その他	面接		計	200	100		450	350	200				1300		
						センター試験	200	100		300	300 注3(1)						1100	
						個別学力検査等										注3(2)		

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成31年度〕 〔志願倍率〕	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個 別 学 力 検 査 等			大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 ・ 個 別 学 力 検 査 等 の 配 点 等										その他の 選抜方法 等				
		教科	科 目 名 等		教科等	科 目 名 等			2段階 選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文		実技	面接	配点 合計	
工学部 〔3.3〕 365人 前期 226人 後期 48人 AO 8人 その他 15人	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	教 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 物基・物		センター試験	200	100		200	200	200	200	200	200	200			900	推薦 外国人 追加合格 欠員補充	
	個別学力検査等									250	150							400				
	計						200	100		450	350	200				1300						
	センター試験						200	100		300	300	200	200			1100						
土木環境工 学部 55人 前期 33人 後期 7人 その他 15人	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	教 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 物基・物、化基・化から1		センター試験	200	100		200	200	200	200	200	200			900			
	個別学力検査等									250	150					400						
	計						200	100		450	350	200				1300						
	センター試験						200	100		300	300	200	200			1100						
応用化学科 55人 前期 26人 後期 7人 AO 8人 その他 14人	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 化基・化		センター試験	200	100		200	200	200	200	200	200			900			
	個別学力検査等									250	150					400						
	計						200	100		450	350	200				1300						
	センター試験						200	100		300	300	200	200			1100						
	後期 3月12日						個別学力検査等															
														</								

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成31年度〕 〔志願倍率〕	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の 選抜方法 等		
		教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試 験 の 区 分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技		面接	配点 合計
工学部 〔3.3〕 先端材料理 工学科 365人 前期 226 後期 25 AO 6 その他 4	前期 2月25日	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの2 物、化の2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B・数Ⅲ 物基・物、化基・化から1		セ ン タ ー 試 験 個別学力検査等 計	200		100	200	200	200 注3(1)					900 推薦 外国人	
	後期 3月12日			その他	面接		セ ン タ ー 試 験 個別学力検査等 計	200		100	300	300	200 注3(1)				1100	
																注3(2)		
								200	100	300	300	200				注3(2)	1100	

(注)

1 大学入試センター試験の利用教科・科目等

(1) 大学入試センター試験の「地歴」、「公民」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。

2 個別学力検査等

数 学

(1) 前期日程における個別学力検査等の数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。

(2) 前期日程における個別学力検査等の数学Bは、『数列』及び『ベクトル』を出題範囲とします。

物 理

(3) 前期日程における個別学力検査等の物理基礎・物理は、全範囲を出題範囲とします。

化 学

(4) 前期日程における個別学力検査等の化学基礎・化学は、全範囲を出題範囲とします。

そ の 他

(5) 前期日程で「物理基礎・物理」を受験する方は、機械工学科、電気電子工学科、コンピュータ理工学科、情報メカトロニクス工学科、土木環境工学科、先端材料理工学科の間で、志望学科に第1、第2の志望順位を付けて出願することが可能です。
する方は、コンピュータ理工学科、土木環境工学科、応用化学科、先端材料理工学科の間で、志望学科に第1、第2の志望順位を付けて出願することが可能です。

(6) 後期日程においては、全学科の間で、志望学科に第1、第2の志望順位を付けて出願することが可能です。

3 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等
(1) 大学入試センター試験における英語のリスニングテストの成績は全学科で利用します。利用にあたっては、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に圧縮し、他の外国語と比較できるように行います。なお、外国語の得点は、表中「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄に従い換算した点数を利用します。

(2) 面接については、複数の面接員により行います。合格者の判定は、面接員の少なくとも1人が面接判定基準を満たしていると判定した受験者の中から、大学入試センター試験の成績に基づき合格者を決定します。
4 個別学力検査等のすべてを受験した場合のみ選考の対象となります。

5 学部・学科等名及び入学定員等欄のその他は、推薦入試募集人員及び私費外国人留学生入試募集人員を合計した数です。

大学の令和2年度入学者選抜における大学入試センター試験の成績は、令和2年度大学入試センター試験の成績のみ利用します。

【入学試験に過去問題を使用することに関して】

(1) 本学のアドミッションポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学、「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。

(2) 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用すること、一部改変すること、使用した過去問題については、入試終了後、受験生に分かるような形で公表します。

(3) 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しています。http://www.nyushikakomon.jp

(4) 生命環境学部

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成31年度〕 〔志願倍率〕	学力検査 等の区分 ・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の 選抜方法 等	
		教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	2段階 選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語 小論文	実技	面接	配点 合計		
生命環境学部 〔5.6〕 150人 前期 30 後期 5 前期 130 後期 20	前期 2月25日 公民 数 理 外	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲから1 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ、簿、情報から1 物、化、生、地から2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ 化基・化、生基・生から1		センター試験	200	100		200	200	200 〔注3(1)〕			900	外国人 追加合格 欠員補充 500	
地域食物科 学科 37人 前期 32 後期 5 （ワイン科 学特別コー スの13人を 含む）	前期 2月25日 公民 数 理 外	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲから1 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ、簿、情報から1 物、化、生、地から2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ 化基・化、生基・生から1		センター試験	100	100		200	200 〔注3(1)〕				850		
環境科学科 30人 前期 25 後期 5	前期 2月25日 公民 数 理 外	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲから1 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ、簿、情報から1 物、化、生、地から2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ 化基・化、生基・生から1		センター試験	200	100		200	200 〔注3(1)〕				900		
	後期 3月12日			その他	面接		センター試験	200	100		200	200 〔注3(1)〕				900		

学部・学科等名 及び入学定員等 （平成31年度） （志願倍率）		学力検査 等の区分 ・日程		大学入試センター試験の利用教科・科目名			個 別 学 力 検 査 等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の 選抜方法 等			
教科		科 目 名 等		教科等		科 目 名 等		2段階 選 抜		試験の区 分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	実技	面接	配点 合計		
生命環境 学部 〔5.6〕	地域社会シ ステム学科	前期 2月25日	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1 現社、倫、政経、倫・政経から1 物、化、生、地から1又は2 物基、化基、生基、地基から2（2科目で1 科目とみなします。） 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 英、独、仏、中、韓から1	国 数 外	国語総合・国語表現・現代文A・現 代文B・古典A・古典B 数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B コミュニケーション英語基礎・コミュ ニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション 英語Ⅱ・コミュニケーション英語 Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ・英語会話	から1	センター試験	200	※100	※100	※100	200	※100 又は200〔注3（1）〕	※100	200	200	200				800	外国人
150人 前期 43 （観光政策 科学特別コ ースの13人 を含む） 後期 20		後期 3月12日		数 外	計		個別学力検査等	※300		※300				※500 又は200	※100 又は200	500					600	追加合格 欠員補充
					センター試験	200	※100	※100	200	※100 又は200〔注3（1）〕											800	
					個別学力検査等														〔注3（3）〕			
					計	200	※100	※100	200	※100	200	※100	200	※100 又は200	※100 又は200	200	200		〔注3（3）〕		800	

※と＊印の教科については、選択教科を示します。

（注）

- 大学入試センター試験の利用教科・科目等
 - 生命工学科、地域食物科学科、環境科学科については大学入試センター試験の「地歴」、「公民」、「理科」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。
 - 地域社会システム学科については大学入試センター試験の「地歴」、「公民」、「理科」から3科目以上受験した場合は、得点の高い2科目名の合計をその成績とします。ただし、「地歴」又は「公民」において同一教科で2科目以上受験した時は、受験した2科目のうち得点の高い1科目のみを成績として利用します。
 - 地域社会システム学科においては、理科の同一科目名を含む科目の選択を認めます。
- 個別学力検査等
 - 前期日程における個別学力検査等の数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の数学Bは、「数列」及び「ベクトル」を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の物理基礎・物理は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の化学基礎・化学は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の生物基礎・生物は、全範囲を出題範囲とします。
 - 前期日程における個別学力検査等の生物基礎・生物は、全範囲を出題範囲とします。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等

(1) 大学入試センター試験における英語のリスニングテストの成績は全学科で利用します。利用にあたっては、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点に圧縮し、他の外国語と比較できるようにします。なお、外国語の得点は、表中「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄に従い換算した点数を利用します。

- ※と＊印の教科については、選択教科を示します。
- 後期日程においては、面接試験及び大学入試センター試験の成績により選考します。
- 個別学力検査等のすべてを受験した場合のみ選考の対象となります。
- その他
 - 地域食物科学科ワイン科学特別コースの志願者は、出願時に申し出ることとなります。なお、ワイン科学特別コースの志願者は、地域食物科学科（前期日程）を第2志望とすることが可能です。
 - 地域社会システム学科観光政策科学特別コースの志願者は、出願時に申し出ることとなります。なお、観光政策科学特別コースの志願者は、地域社会システム学科（前期日程）を第2志望とすることが可能です。

本学の令和2年度入学者選抜における大学入試センター試験の成績は、令和2年度大学入試センター試験の成績のみ利用します。

【入学試験に過去問題を使用することに関して】

- 本学のアドミッションポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学、「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。
- 入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、使用した過去問題については、入試終了後、受験生に分かるような形で公表します。
- 「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、次のURLにて公表しています。http://www.nyushikakomon.jp

実技検査の内容（学校教育課程）

（前期日程・後期日程）

課程・コース	実 技 検 査 の 内 容 ・ 注 意 事 項
学校教育課程 芸術身体教育コース	以下の音楽実技、美術実技、体育実技の中から、いずれか1つを選択すること。
	音楽実技を選択する方 下記のⅠ、Ⅱを受験すること。 Ⅰ 共通課題（音楽基礎能力試験） 下記のA、B、C、Dを受験すること。 A 旋律聴音 1 題（12～16小節） B 新曲視唱 1 題（練習時間 5 分程度） 移動ド、固定ド、母音唱などの唱法は問わない。 C コンコーネ50番 No.15～No.35より当日 1、2 曲指定する。 移動ド、固定ド、母音唱などの唱法は問わない。 高、中、低声用いずれでもよい。楽譜を見てもよい。 D ピアノ 任意の楽曲を 1 曲演奏すること。 （暗譜すること。繰り返しは省略すること。） （注）Ⅱの選択課題をピアノで受験する方は、上記Dは必要がない。 Ⅱ 選択課題（演奏実技） 任意の器楽曲、又は声楽曲を 1 曲演奏すること。 1 ピアノで受験の場合 試験当日楽譜を持参すること。 2 声楽で受験の場合 ① 原語で演奏すること。 ② 出願時に演奏曲の楽譜（ピアノ伴奏の必要な場合は伴奏部を伴った楽譜）を同封すること。 3 ピアノ以外の楽器で受験の場合 ① 電子オルガン（YAMAHA、ELS-01C バイタライズユニット Ver.up 済み） 以外の楽器は各自持参すること。なお、自動伴奏機能は使わないこと。 ② 出願時に演奏曲の楽譜（曲名及び楽器名を明示。）を同封すること。 ③ 伴奏は無しとする。 （注）1 全て暗譜すること。繰り返しは省略すること。 2 演奏する曲の様式、ジャンルは問わない。自作のものでもよい。
	美術実技を選択する方 造形表現力の検査（形態、色彩、構成力などに関する考査を200分で行う。） （注）1 透明、不透明、アクリル絵の具のいずれかと、鉛筆、消具、筆、筆洗、パレット、筆ふき布など、彩色用具一式を持参すること。 2 B3 画用ボード、イーゼルは本学で用意する。
	体育実技を選択する方 運動技能に関する検査（運動を行うのにふさわしい服装を準備すること。更衣室の利用可。） 「活動実績報告書」と、「活動実績報告書証明書類」を提出すること。

2 段階選抜について

志願者数が募集人員の所定の倍率を超えた場合は、第 1 段階選抜を行い、第 1 段階合格者に対して、個別学力検査等を実施します。

【医学部医学科後期日程】

大学入試センター試験の成績と調査書の内容により、第 1 段階選抜を行い、募集人員の約10倍を合格者とします。ただし、志願者が募集人員の10倍を超えない場合は、第 1 段階選抜を行いません。

なお、大学入試センター試験の配点は、下記のとおりとし、調査書は総合判定の資料とします。

国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	合計
200	100		200	200	200	900

5 推薦入試

(1) 教育学部（一般推薦入試）

実 施 課 程 名	学校教育課程		
募 集 人 員	コース	募集人員	推薦入試の対象となる志願者の範囲と選抜方法
	障 害 児 教 育 コ ー ス	3 人	全体の評定平均値が4.0以上 面接・小論文を課す
	言 語 教 育 コ ー ス	2	全体の評定平均値が4.0以上 面接・小論文を課す
	生 活 社 会 教 育 コ ー ス	2	全体の評定平均値が4.0以上 面接・小論文を課す
	科 学 教 育 コ ー ス	3	全体の評定平均値が4.0以上で、「数学Ⅲ」を履修していること 口述試験を課す（数学、理科、一般的な科学技術に関する内容を含みます。（注）参照）
	芸 術 身 体 教 育 コ ー ス	8	全体の評定平均値が3.8以上 実技検査（別紙2 P26参照）・面接を課す
出 願 要 件	1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公立高等学校とし、1 高等学校から推薦し得る人員は、各コースごとに1 人とします。（科学教育コースは2 人までとします。） 2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の①②③④の条件をすべて満たしている方とします。 ① 高等学校を令和元年度中に卒業した方及び卒業見込みの方 ② 高等学校の学業成績が優秀で、調査書の評定平均値等が上記の範囲の方 ③ 本学部の学生となるのに十分な適性と強い意欲を持った方で、高等学校長が責任をもって推薦できる方 ④ 合格した場合は入学することを確約できる方		
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、推薦書、調査書、活動実績報告書とその証明書類（学校教育課程芸術身体教育コースの体育実技を選択する方）の内容、本学が実施する面接、小論文、実技検査等の各成績の結果を総合して判定し、合格者を決定します。		
出 願 期 間	令和元年11月1日（金）～11月8日（金）		
選 抜 期 日	令和元年11月16日（土）		
合 格 発 表 日	令和元年11月25日（月）		
そ の 他			

（注） 科学教育コースでは、受験票送付の際に、「数学」、「理科」、「一般的な科学技術」に関連したテーマを各一つ記した書類を同封します。

受験者は、それらのテーマの中から一つを選択し、そのテーマに沿った小論文をあらかじめ書いて、それを口述試験当日に持参してください。科学教育コースでは、受験生から提出された小論文を参考資料として「数学」、「理科」、「一般的な科学技術」のうちいずれかに関する内容を含む口述試験を行います。

（送付されてきた受験票にテーマが同封されていなかった場合、教学支援部入試課に連絡してください。）

実技検査の内容（学校教育課程）

教育学部（一般推薦入試）

課程・コース	実 技 検 査 の 内 容 ・ 注 意 事 項
学校教育課程 芸術身体教育コース	以下の音楽実技、美術実技、体育実技の中から、いずれか1つを選択すること。
	音楽実技を選択する方 下記のⅠ、Ⅱを受験すること。 Ⅰ 共通課題（音楽基礎能力試験） 下記のA、B、C、Dを受験すること。 A 旋律聴音 1 題（12～16小節） B 新曲視唱 1 題（練習時間 5 分程度） 移動ド、固定ド、母音唱などの唱法は問わない。 C コンコーネ50番 No.15～No.35より当日 1、2 曲指定する。 移動ド、固定ド、母音唱などの唱法は問わない。 高、中、低声用いずれでもよい。楽譜を見てもよい。 D ピアノ 任意の楽曲を 1 曲演奏すること。 （暗譜すること。繰り返しは省略すること。） （注）Ⅱの選択課題をピアノで受験する方は、上記Dは必要がない。 Ⅱ 選択課題（演奏実技） 任意の器楽曲、又は声楽曲を演奏すること。 1 ピアノで受験の場合 ① 1 曲又は数曲を演奏すること（10分程度）。 ② 試験当日楽譜を持参すること。 2 声楽で受験の場合 ① 日本歌曲を含む 2 曲を演奏すること。外国語は原語で演奏すること。 ② 出願時に演奏曲の楽譜（ピアノ伴奏の必要な場合は伴奏部を伴った楽譜）を同封すること。 3 ピアノ以外の楽器で受験の場合 ① 1 曲又は数曲を演奏すること（5～10分程度）。 ② 電子オルガン（YAMAHA、ELS-01C バイタライズユニット Ver.up 済み） 以外の楽器は各自持参すること。なお、自動伴奏機能は使わないこと。 ③ 出願時に演奏曲の楽譜（曲名及び楽器名を明示。）を同封すること。 ④ 伴奏は無しとする。 （注）1 全て暗譜すること。繰り返しは省略すること。 2 演奏する曲の様式、ジャンルは問わない。自作のものでもよい。
	美術実技を選択する方 造形表現力の検査（形態、色彩、構成力などに関する考査を200分で行う。） （注）1 透明、不透明、アクリル絵の具のいずれかと、鉛筆、消具、筆、筆洗、パレット、筆ふき布など、彩色用具一式を持参すること。 2 B3 画用ボード、イーゼルは本学で用意する。
	体育実技を選択する方 高等学校在籍時の各種大会参加等の活動実績について、「活動実績報告書」と「活動実績報告書証明書類」を用いて実技検査とする。

(2) 教育学部（専門学科・総合学科卒業生推薦入試）

実 施 課 程 名	学校教育課程		
募 集 人 員	コース	募集人員	推薦入試の対象となる志願者の範囲
	科 学 教 育 コ ー ス	1 人	全国の国公立高等学校の工業に関連する学科を卒業見込みの方 全国の国公立高等学校の総合学科を卒業見込みの方のうち、工業に関する科目を含め 職業に関する科目を20単位以上履修見込みの方
出 願 要 件	1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公立高等学校とし、1 高等学校から推薦し得る人員は1人とします。 2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)(2)(3)(4)の条件をすべて満たしている方とします。 (1) 高等学校を令和元年度中に卒業した方及び卒業見込みの方 (2) 上記の募集人員欄の推薦入試の対象となる高等学校・志願者の範囲に該当する方 (3) 調査書の学習成績概評が「A」以上で、本学部入学後、学業に意欲的に取り組むことを高等学校長が責任をもって推薦できる方 (4) 合格した場合は入学することを確約できる方		
選 抜 方 法 等	科学教育コースの技術教育系を希望する方に、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、下記の方法により選抜します。 口述試験（「数学」、「理科」及び「課題研究」に関する内容を含む。）、推薦書及び調査書を総合して判定し、合格者を決定します。		
出 願 期 間	令和元年11月1日(金)～11月8日(金)		
選 抜 期 日	令和元年11月16日(土)		
合 格 発 表 日	令和元年11月25日(月)		
そ の 他			

(3) 医学部医学科（推薦入試）

実 施 学 科 名	医学科
募 集 人 員	地域枠 15人以内（欠員が生じた場合は、後期日程で補充します。）（注）P 6 を参照
出 願 要 件	山梨県内の高等学校を平成31年3月に卒業した方（平成30年4月から平成31年3月までの学年の途中において卒業した方を含む。）並びに令和2年3月高等学校を卒業見込みの方（単位制学校で、卒業が3月でない場合に限り、令和元年度に卒業した方を含む。）で、次の要件を全て満たし、高等学校長が責任をもって推薦できる方とします。 下記要件を1つでも満たさない方は、出願できません。 ア 医師免許取得後、初期臨床研修を含む一定期間山梨県内の医療機関（本学医学部附属病院を含む。）において医師の業務に従事することを確約できる方 ※一定期間とは、山梨県医師修学資金貸与制度の規定に準じる。 イ 山梨県医師修学資金貸与制度の利用を確約できる方（山梨県ホームページ参照*） ※山梨県医師修学資金を一括返済しても、山梨県内で医師として業務に従事する期間は短縮されません。 ウ 高等学校における調査書の学習成績概評が「㊤」又は「A」である方 ※「㊤」とは学習成績概評がAに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀で、高等学校長が責任をもって推薦できる方です。この場合、高等学校長は調査書の「備考」の欄にその理由を明示しなければなりません。 エ 合格した場合は入学することを確約できる方 なお、令和2年度大学入試センター試験の本学が指定した教科・科目の受験が必要です。
選 抜 方 法 等	第1次選考 学校長から提出された推薦書、調査書及び志願理由書並びに大学入試センター試験の成績により、第1次選考の合格者を決定します。なお、第1次選考の合格者数は、募集人員の約1.5倍とします。ただし、志願者が募集人員の約1.5倍を超えない場合は、第1次選考を行いません。 第2次選考 第1次選考の合格者に対して、面接を課し、この評価及び学校長から提出された推薦書、調査書及び志願理由書並びに大学入試センター試験の成績を総合評価して、第2次選考の合格者を決定します。 令和2年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目 国語（国） 地歴（世B、日B、地理B、倫・政経から1） 公民 数（数Ⅰ・数A）（数Ⅱ・数B） 理（物、化、生から2） 外（英） 〔5教科7科目〕 （注）1 「外国語」の「英語」は、リスニングテストの成績も利用します。 2 「地歴」、「公民」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。
出 願 期 間	令和元年12月12日（木）～12月19日（木）
選 抜 期 日	令和2年2月10日（月）（第2次選考）
合 格 発 表 日	令和2年2月12日（水）
そ の 他	*山梨県ホームページ【医師修学資金について】 http://www.pref.yamanashi.jp/imuka/ishikakuho/kakuhojigyo/shugakushikin.html

(4) 医学部看護学科（一般推薦入試）

実 施 学 科 名	看護学科
募 集 人 員	25人（欠員が生じた場合は、前期日程で補充します。）
出 願 要 件	高等学校（文部科学大臣により高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設を含む。）若しくは中等教育学校を平成30年3月及び平成31年3月に卒業した方（平成29年4月から平成31年3月までの学年の途中において卒業した方を含む。）並びに令和2年3月高等学校若しくは中等教育学校を卒業見込みの方（単位制高校・在外教育施設等で、卒業が3月でない場合に限り、令和元年度に卒業した方を含む。）で、次の要件を満たし、学校長が責任をもって推薦できる方とします。 ア 本学志望の動機が明確で、将来看護学の分野で社会に貢献する意欲をもっている方 イ 高等学校若しくは中等教育学校後期課程における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である方 ウ 課外活動等にも積極的に参加して、充実した高等学校若しくは中等教育学校生活を送った方 エ 合格した場合は入学することを確約できる方
選 抜 方 法 等	小論文及び面接を課し、この評価並びに学校長の推薦書及び調査書を総合的にみて、入学者を選抜します。
出 願 期 間	令和元年11月1日(金)～11月8日(金)
選 抜 期 日	令和元年11月16日(土)
合 格 発 表 日	令和元年11月25日(月)
そ の 他	

(5) 工学部（一般推薦入試）

実 施 学 科 名	機械工学科 電気電子工学科 コンピュータ理工学科 情報メカトロニクス工学科 土木環境工学科 応用化学科 先端材料理工学科			
募 集 人 員	機械工学科	10人	電気電子工学科	10人
	コンピュータ理工学科	10人	情報メカトロニクス工学科	13人
	土木環境工学科	15人	応用化学科	14人
	先端材料理工学科	4人		
出 願 要 件	1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公立高等学校とし、1 高等学校から推薦し得る人員に制限はありません。 2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)～(4)の条件をすべて満たしている方とします。大学入試センター試験の受験は必要としません。 なお、別途実施する「工学部専門学科・総合学科卒業生推薦入試」との併願はできません。 (1) 高等学校を平成30年4月から令和2年3月までに卒業した方又は卒業見込みの方 (2) 被推薦者の高等学校の学業成績に対する条件 機械工学科、電気電子工学科、コンピュータ理工学科、情報メカトロニクス工学科、土木環境工学科、先端材料理工学科については、高等学校の学業成績が優秀で、調査書の全体の評定平均値が3.8以上、若しくは数学の評定平均値が4.0以上である方 応用化学科については、高等学校の学業成績が優秀で、調査書の全体の評定平均値が3.8以上、若しくは理科の評定平均値が4.0以上、又は数学の評定平均値が4.0以上である方 (3) 本学部の学生となるのに十分な適性と強い勉学意欲を持った方で、高等学校長が責任をもって推薦できる方 ただし、高等学校の普通科を卒業又は同学科に在籍している志願者については、別表（P31）に示す○印を付した科目を履修していることが望ましい。 また、高等学校の専門教育を主とする学科あるいは総合学科を卒業又は同学科に在籍している志願者については、志望学科ごとに別表に示す○印を付した科目に関係が深い科目を履修していることが望ましい。 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる方			
選 抜 方 法 等	高等学校長から提出される推薦書、調査書の各内容、本学が実施する小論文及び面接の各成績の結果を総合して判定し、合格者を決定します。 小論文及び面接においては、数学・理科・外国語の素養に関する試問を含むこともあります。			
出 願 期 間	令和元年11月1日(金)～11月8日(金)			
選 抜 期 日	令和元年11月16日(土)			
合 格 発 表 日	令和元年11月25日(月)			
そ の 他				

別 表

出願要件(3)の履修していることが望ましい科目

学 科	教 科 科 目	数 学		理 科			
		数Ⅱ・数B	数Ⅲ	物理基礎	物理	化学基礎	化学
機 械 工 学 科		○	○	○	○		
電 気 電 子 工 学 科		○	○	○	○		
コ ン プ ュ ー タ 理 工 学 科		○	○	○	○		
情 報 メ カ ト ロ ニ ク ス 工 学 科		○	○	○	○		
土 木 環 境 工 学 科		○	○	○	○	○	
応 用 化 学 科		○	○	○	○	○	○
先 端 材 料 理 工 学 科		○	○	○	○	○	○

(6) 工学部（専門学科・総合学科卒業生推薦入試）

実 施 学 科 名	電気電子工学科 コンピュータ理工学科 情報メカトロニクス工学科
募 集 人 員	電気電子工学科 3人 コンピュータ理工学科 2人 情報メカトロニクス工学科 2人
出 願 要 件	1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公立高等学校とし、1 高等学校から推薦し得る人員に制限はありません。 2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)～(4)の条件をすべて満たしている方とします。大学入試センター試験の受験は必要としません。 なお、別途実施する「工学部一般推薦入試」との併願はできません。 (1) 高等学校で職業に関する学科若しくは総合学科において、本学の志望学科に関係のある専門教育を受けて卒業した方又は令和元年度中に卒業見込みの方 (2) 高等学校の学業成績が優秀で調査書の全体の評定平均値が3.8以上である方 (3) 本学部の学生となるのに十分な適性と強い勉学意欲を持った方で、高等学校長が責任をもって推薦できる方 (4) 合格した場合は、入学することを確約できる方
選 抜 方 法 等	高等学校長から提出される推薦書、調査書の各内容、本学が実施する小論文及び面接の各成績の結果を総合して判定し、合格者を決定します。小論文及び面接においては、論理的思考力、基礎的素養、高等学校の専門課程で学習した成果などに着目して総合的に評価します。また、数学・理科・外国語の素養に関し試問することもあります。
出 願 期 間	令和元年11月1日(金)～11月8日(金)
選 抜 期 日	令和元年11月16日(土)
合 格 発 表 日	令和元年11月25日(月)
そ の 他	

6 アドミッション・オフィス入試

工学部

実 施 学 科 名	応用化学科
募 集 人 員	8 人
出 願 要 件	アドミッション・オフィス入試志願者は、次の(1)～(6)の条件をすべて満たしている方とします。大学入試センター試験の受験は必要としません。 (1) 高等学校を令和2年3月卒業見込みの方 (2) 学業成績が優秀で、調査書の評定平均値等が次の①～③のいずれかを満たしている方 ① 化学基礎または化学、あるいはそれらに相当する科目の評定が4.0以上である方 ② 数学の評定平均値が4.0以上である方 ③ 全体の評定平均値が4.0以上である方 (3) 化学基礎と物理基礎、あるいはそれに相当する科目を履修している方、もしくは履修する見込みの方 (4) 高等学校在学中に化学グランプリに参加し、その一次選考の成績を提出できる方 (5) 本学科の学生となるのに十分な適性と強い勉学意欲のある方 (6) 合格した場合は、入学することを確約できる方 ただし、高等学校の普通科に在籍している志願者については、数Ⅱ・数B、数Ⅲ、化学、物理を履修していることが望ましい。また、高等学校の専門教育を主とする学科あるいは総合学科に在籍している志願者については、これらの科目に関係が深い科目を履修していることが望ましい。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験および個別学力検査を課さず、化学グランプリの一次選考の成績、志望理由書、調査書、一般面接、実験・実習の実施、質疑応答の各内容を総合して判定し、合格者を決定します。 一般面接では、目的意識、勉学意欲、論理的思考力などを評価します。 実験・実習と質疑応答では、概要を事前に指定した（受験票送付時に同封）実験・実習を行い、それについての質疑応答を行います。ここでは、探求意欲、観察力、論理的思考力、コミュニケーション力などを総合的に評価します。
出 願 期 間	令和元年9月2日(月)～9月9日(月)
選 抜 期 日	令和元年9月28日(土)
合 格 発 表 日	令和元年10月4日(金)
そ の 他	

7 私費外国人留学生入試

教育学部、工学部、生命環境学部

- ① 大学入試センター試験を免除し、私費外国人留学生のための入学者選抜を実施します。詳細は、12月1日(日)までに発表予定の「令和2年度山梨大学私費外国人留学生入試募集要項」を参照してください。
- ② 選抜にあたっては、独立行政法人日本学生支援機構が令和元年6月及び11月に実施する「2019年度日本留学試験」の成績を利用しますので、必ず受験してください。
なお、利用科目等については、下表を参照してください。
- ③ 英語科目としてTOEFLまたはTOEICの成績を利用しますので、必ず受験してください。ただし、2018年1月以降に受験したものに限りません。
 - ・ TOEFL-iBT Examinee Score Report
 - ・ The revised TOEFL Paper-delivered Test (test taker score report)
 - ・ TOEIC Listening & Reading 公式認定書 (Official Score Certificate もしくは Official Score Report)

・日本留学試験の利用科目等

学部・学科等名		利 用 科 目 名	出題言語
教育学部	学校教育課程 幼小発達教育コース 障害児教育コース 言語教育コース 芸術身体教育コース	①日本語 ②総合科目 ③数学(コース1)	日本語
	学校教育課程 生活社会教育コース	①日本語 ②総合科目 ③数学(コース1) ④理科(物理・化学・生物から2科目選択) から日本語を含む3科目を選択	
	学校教育課程 科学教育コース	①日本語 ②理科(物理・化学・生物から2科目選択) ③数学(コース2)	
工学部	機械工学科	①日本語 ②理科(物理・化学) ③数学(コース2)	日本語
	電気電子工学科	①日本語 ②理科(物理必須、化学・生物から1科目選択、合計2科目) ③数学(コース2)	
	コンピュータ理工学科	①日本語 ②理科(物理・化学・生物から2科目選択) ③数学(コース2)	
	情報メカトロニクス工学科	①日本語 ②理科(物理必須、化学・生物から1科目選択、合計2科目) ③数学(コース2)	
	土木環境工学科	①日本語 ②理科(物理・化学・生物から2科目選択) ③数学(コース2)	
	応用化学科	①日本語 ②理科(物理・化学) ③数学(コース2)	
	先端材料理工学科	①日本語 ②理科(物理・化学) ③数学(コース2)	
生命環境学部	生命工学科	①日本語 ②理科(化学必須、物理・生物から1科目選択、合計2科目) ③数学(コース2)	日本語
	地域食物科学科	①日本語 ②理科(物理、化学、生物から2科目選択) ③数学(コース2)	
	環境科学科	①日本語 ②理科(物理、化学、生物から2科目選択) ③数学(コース2)	
	地域社会システム学科	①日本語 ②総合科目 ③数学(コース1)	

(注) 利用科目には、得点基準が定まっているので募集要項にて確認してください。

Ⅳ 受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談

1 相談の時期と方法

病気・負傷や障害等のある入学志願者のうち、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願の前にあらかじめ教学支援部入試課に申し出てください。

申し出の内容により相談が必要と思われる場合は、学長あての相談申請書(次の①～⑤の事項を記したもの(書式は任意))及び⑥、⑦を添付のうえ、一般入試については、令和2年1月6日(月)までに、その他の入試については、出願開始の1か月前までに教学支援部入試課へ提出してください。

また、必要に応じて、入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

- ① 選抜試験名、志望学部、学科、課程・コース、氏名、生年月日、出身学校
- ② 受験上及び修学上の配慮を希望する事項・内容
- ③ 高等学校在学中にとられていた特別措置
- ④ 日常生活の状況
- ⑤ 連絡先(現住所、電話等)
- ⑥ 医師の診断書等、病気・負傷や障害等の状況がわかる文書あるいはそのコピー
- ⑦ 大学入試センターからの「受験上の配慮事項決定通知書」のある方はそのコピー

2 相談の期限以降に生じた不慮の事故等による場合

相談の期限以降に、不慮の事故等で負傷し、新たに身体に障害を有することとなり、受験上又は修学上の配慮が必要となった方は、教学支援部入試課に申し出てください。

3 連絡先

山梨大学教学支援部入試課

〒400-8510 甲府市武田4丁目4-37

電話 055-220-8046

Ⅴ 募集要項の公表時期と入手方法

山梨大学では、Web出願を実施しています。募集要項冊子は配布していませんので、本学ホームページよりダウンロード(PDF形式)してください。各学生募集要項については、以下の時期に発表を予定しています。

募集要項掲載 URL <https://www.yamanashi.ac.jp/admission/291>

- 推薦入試募集要項 8月上旬
- アドミッション・オフィス入試募集要項 . . . 7月下旬
- 一般入試学生募集要項 10月下旬
- 私費外国人留学生入試募集要項 12月上旬

Ⅵ 入試情報サイト

山梨大学ホームページ <https://www.yamanashi.ac.jp>

Web出願サイト <https://syutugan.yamanashi.ac.jp>

VII 大学案内等の請求方法

次の(1)～(5)のいずれかの方法で請求してください。

インターネットによる資料請求

(1) テレメールで請求する方法【取扱資料：大学案内、選抜要項】

- ① 下記のいずれかの方法で、テレメールにアクセスしてください。

インターネット (パソコン・スマホ・ケータイ)	https://telemail.jp/	スマホ・ケータイ用 QR コード (資料請求番号の入力不要)	
自動音声応答電話	I P 電話 050-8601-0101 (24時間受付)		
	＊一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。 ＊住所氏名等の登録時はゆっくり・はっきりとお話してください。 登録された音声の不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。		

- ② 資料請求番号を入力またはプッシュし、ガイダンスに従って登録してください。

資 料 名	資料請求番号	発送開始日
大 学 案 内	5 6 3 3 5 2	6 月 上 旬
入 学 者 選 抜 要 項	9 5 3 0 3 2	8 月 上 旬
入学者選抜要項・大学案内	9 5 3 0 4 2	8 月 上 旬

※資料請求から3～4日で送付されます。

※料金は、資料に同封されている支払い方法に従ってお支払いください。支払手数料が別途必要となります。

- ③ テレメールでの請求に関する問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター 電話 050-8601-0102 (9:30～18:00)

(2) モバっちょで請求する方法【取扱資料：大学案内、選抜要項】

- ① 下記のいずれかの方法でアクセスしてください。

インターネット (パソコン、スマホ、携帯電話)	https://djcm-b.jp/yamanashi/	QR コード	
携帯電話・スマートフォンの機種、携帯電話会社との契約状況によって、利用できない場合があります。			

※資料請求代金と支払手数料が必要になります。

※携帯払い、スマホ払い、クレジットカード決済、コンビニ後払いができます。

- ② モバっちょでの請求に関する問い合わせ先

モバっちょカスタマーセンター 電話 050-3540-5005 (平日 10:00～18:00)

山梨大学から請求する方法【取扱資料：大学案内、選抜要項】

(3) 大学のホームページから請求する

山梨大学のホームページからテレメール、モバっちょを利用して資料請求ができます。

山梨大学ホームページ>入試情報>資料請求

(4) 本学窓口にて入手する

- ・総合案内所（本学北側正門前）／土・日・祝日を含む
- ・入試課窓口／月～金曜日 9:00～17:00（祝日、夏季休業、年末年始等を除く）

(5) 本学へ郵送にて請求する

本学入試課宛の封筒の表に請求を希望する資料名を朱書きし、返信用封筒（角型2号（24cm×33.2cm））を同封のうえ、請求してください。返信用封筒には返信先の住所・氏名を明記し、215円分の郵便切手を貼り付けてください。

請求及び問い合わせ先

山梨大学教学支援部入試課 〒400-8510 甲府市武田4丁目4-37 電話 055-220-8046